

論文の訂正について

日本教育大学協会年報編集委員会

研究年報第42集掲載の下記論文について、引用に不適切な箇所が認められました。年報編集委員会では、引用元の論文との比較を慎重に行った結果、年報論文には十分な新規性があると判断できることから、論文の取り消しは行わず、著者に嚴重注意を行った上で、以下のように論文を修正することを認めることにしました。

記

海外とのオンデマンド動画交流による国際理解教育実践の開発と効果検証
—高等学校外国語科におけるICTを活用した有効事例の提示をめざして—
『日本教育大学協会研究年報』第42集（2024）pp.127-137

〈訂正表〉

| 頁・行 | 訂正前 | 訂正後 |
|----------------|---|--|
| P128の表1 | — | 表1の下に次の一文を挿入。 注：本研究の調査内容ならびに吉田・南（2023）の表1にもとづき筆者作成。 |
| P130の表2 の脚注 | 注：丸括弧内の数字は、質問事項が動画に映っている時間を示している。 | 注：収集データならびに吉田・南（2023）の表4にもとづき筆者作成。なお、丸括弧内の数字は質問事項が動画に映っている時間を示している。 |
| P130の表3 | — | 表3の下に次の一文を挿入。 注：収集データを参考にしつつ、吉田・南（2023）の表3を本稿に合わせて一部修正の上、引用。 |
| P135の註2 | 本授業実践に関しては吉田・南（2023）でも紹介されているが、その内容はあくまで実践報告にとどまっており、同授業実践の開発の理論的背景や学習効果の検証結果等の研究成果までは提示されていない。 | 本稿の第3章（2）（3）等に相当する本授業実践の内容については、吉田・南（2023）でも一部報告されている。吉田・南（2023）は、ICTを活用した海外交流学習による国際理解教育の実践事例の報告を目的としたものであるのに対し、本稿は同授業実践の開発の理論的背景や学習効果の提示を目的としている。授業実践の目標の一部については吉田・南（2023）でも検証結果を報告済みであるが、本稿ではその目標についてより多面的に検証し、新たな知見を示している。 |